

# おあしす



左：村の子どもたちとお母さん，そしてお祖母さん（子どもたちの後ろ）．中央：遊牧民の住居．壁は木材を粘土で塗り固めた泥壁，この中に9人の子供と両親の11名が暮らしている．右：高床式の食料倉庫，屋根はトタン葺き．



左：フェンスの右側は放牧地，左側は家畜の侵入がフェンスで制限され，植生が繁茂している．右：放し飼いの山羊．



村の食料倉庫の屋根（左）と小学校の屋根（右）を利用したルーフウォーターハベスティング．

## ケニア共和国サンプル県のサンプル族の暮らし

サンプル県は首都ナイロビから北に260 kmに位置する乾燥・半乾燥地である．サンプル族は遊牧民であるとの説明を受けたが，訪れた村の人々は畑地も所有しながら，放牧と畑作を生業にしていた．訪れた8月末は少雨期の始まりのようで，地面は既に緑に被われていた．  
(写真提供：渡邊文雄)

## 2016 年度学会賞受賞候補者推薦のお願い

日本沙漠学会正会員 各位

日本沙漠学会会長 小島 紀徳  
学会賞審査委員会委員長 白石 雅美

日本沙漠学会細則第 34 条にもとづき、日本沙漠学会賞（学会賞，学術論文賞，進歩賞，奨励賞の 4 賞）を公募いたします。つきましては、学会賞受賞候補者を下記の要領でご推薦下さいますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1. 学会賞の種類

- (1) 日本沙漠学会学会賞 : 本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞 : 「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (3) 日本沙漠学会進歩賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する技術的，実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。
- (4) 日本沙漠学会奨励賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する。この場合の受賞者は，原則として当該年度において 35 歳以下の会員とする。なお，35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には，その理由書を添付する。

#### 2. 推薦期限 2017 年 2 月 28 日（火） 当日消印有効

#### 3. 推薦方法 以下の書類を期限までに学会賞審査委員会（幹事）宛に郵送して下さい。なお，推薦には「自薦」は含まれません。

- (1) 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞を推薦する場合  
様式 1 の推薦書 1 部  
推薦に関する資料 1 組
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞を推薦する場合  
様式 2 の推薦書 1 部  
推薦に関する業績 1 組

#### 4. 宛先（照会先）

〒 156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科  
広域環境情報学研究室 気付 日本沙漠学会 学会賞審査委員会 幹事 豊田裕道  
TEL : 03-5477-2494 FAX : 03-5477-2620 E-mail : h1toyoda@nodai.ac.jp

#### 5. その他

応募された書類は返却しませんので，必要な場合は写しを保管下さい。

なお，過去の受賞者については日本沙漠学会ホームページ (<http://www.jaals.net/>) をご参照下さい。

## 様式 1

(日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞用)

平成 年 月 日

## 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞推薦書

1. 推薦者 所属：
 

氏名： 印

住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
 

氏名： 生年 年 月 日

住所・電話：

入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

## 様式 2

(日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞用)

平成 年 月 日

## 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞推薦書

1. 推薦者 所属：
 

氏名： 印

住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
 

氏名： 生年 年 月 日

住所・電話：

入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど
 

著者名 (共著の場合は全員), 題目, 掲載誌名, 巻号, 頁, 発行年を記載すること。

## 記入上の注意

- 1) 書 式 A4 縦置横書き, 明朝体 12 ポイント, 上下左右マージン 2.0cm 以上, 1 行文字数 35 ~ 40 字, 1 ページ行数 35 ~ 40 行
- 2) 被推薦者 被推薦者が団体の場合は団体名およびその代表者を記入して下さい。
- 3) 推薦理由 箇条書きの場合は約 100 字以内で説明して下さい。  
箇条書きでない場合は全体を 400 字程度で記載して下さい。
- 4) 様式 1 「日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞」の場合 5. 資料はコピーなどを添付して下さい。
- 5) 様式 2 「日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞」の場合 5. 業績リストは研究業績の別刷り (コピー可) を添付して下さい。

会 告

日本沙漠学会次期評議員候補者の推薦のお願い（依頼）

2016年10月1日

日本沙漠学会 正・名誉会員 各位

日本沙漠学会選挙管理委員会  
委員長 田島 淳

謹啓

時下、日本沙漠学会正・名誉会員におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、次年度2017年度は日本沙漠学会の役員改選の年度となります。そこで、「日本沙漠学会会則・細則・内規」に従いまして、新規評議員候補者の推薦をお願いいたします。推薦に関わる要項を以下に掲載いたしましたので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

謹白

記

1. 被推薦者の資格：日本沙漠学会正会員であり、2014・2015・2016年度の評議員でない者  
下記 [参考]、および沙漠研究 26-2 に同封されている名簿を参照のこと
2. 記載事項：官製ハガキの裏面に以下の様式-1 に従い記入  
①被推薦者氏名（5名以内連記可）・同連絡先住所・電話番号  
②推薦者氏名（自筆・捺印のこと）・同連絡先住所・電話番号  
を記入のこと
3. 締切：2016年11月11日（金）（必着）
4. 送付先：〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1  
東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科内  
日本沙漠学会選挙管理委員会 橘 隆一 宛

様式-1

次期評議員候補者の推薦		
①被推薦者氏名	同連絡先住所	電話番号
②推薦者氏名	同連絡先住所	電話番号
（自筆・捺印のこと）		

[参考] 現評議員

石川祐一	岩本 彰	上原有恒	牛木久雄	川端良子	北村義信	小島紀徳	酒井裕司
篠田 裕	白石雅美	鈴木伸治	鈴木 潤	高橋新平	田島 淳	田中 徹	豊田裕道
中村 徹	縄田浩志	西牧隆壯	平田昌弘	松本 聡	的場泰信	森尾貴広	矢沢勇樹
山田パリーダ	吉川 賢	吉崎真司	渡邊文雄	渡邊三津子			

---

## 講演会のご案内

---

日本沙漠学会乾燥地農学分科会会長  
石川 祐一

拝啓 貴職益々ご清栄の段、大慶に存じます。

さて、乾燥地農学分科会では、下記のとおり講演会を開催いたします。奮ってご参加下さいませようお願い申し上げます。

敬具

記

- 
- 主催：日本沙漠学会乾燥地農学分科会
  - 日時：2016年11月17日（木）13：00～17：30（受付12：30～）
  - 会場：東京大学農学部（弥生キャンパス）フードサイエンス棟（旧4号館）中島董一郎記念ホール  
(URL：<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/overview.html>)
  - 開催趣旨：

去る8月27・28日に第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）が開催された。日本側の支援では「質の高いインフラパートナーシップ」が提唱され、農業開発分野についても、今後はより高度な開発・支援へとシフトしていくと予想される。また、大規模火山を有するアフリカでもこれまで火山による自然災害と復興支援が行われている。アフリカの自然災害に日本の経験を活かせることはないだろうか。加えて、国際開発支援の重要な柱の一つである人材育成の面でも支援の質的变化が予想される。現在日本に留学しているアフリカ人学生はその変化を実感しているのだろうか。このような背景から、本講演会ではTICAD VIを踏まえてこれからの日本の援助がどう変わるのか、日本のこれまでの経験をどのように活かせば良いのか、を議論する場にしたい。

---

### アフリカ支援：TICAD VIを終えて－日本の援助はどう変わるのか？－

#### 講演会次第

- 
- |               |   |
|---------------|---|
| ★ 12：30－      | 受付  |
| ★ 13：00－13：05 | 開会の辞  |
| ★ 13：05－13：50 | 基調講演 講師：北野尚宏氏（独法・国際協力機構研究所所長）                                     |
| ★ 13：50－14：35 | 講師：大場 武氏（東海大学理学部教授）   |
| ★ 14：45－15：30 | 講師：Fadoumo Ali Malow氏（東京農業大学地域環境科学部 留学生〔ジブチ〕）                     |
| ★ 15：30－16：15 | 講師：長井宏治氏（NTC インターナショナル(株)企画営業部部长）                                 |
| ★ 16：25－17：25 | 全体討論<br>モデレーター：石川祐一（秋田県立大学、分科会会長）<br>パネラー：大倉利明氏、原 正和氏、志水勝好氏、藤巻晴行氏 |
| ★ 17：25－17：30 | 閉会の辞  |
| ※ 14：35－14：45 | ブレイクタイム   |
- 

#### ●参加費 無料（資料代1,000円）

電子メールまたはFAXで、①氏名、②TEL、③FAX、④E-mail、⑤所属をご記入の上、事務局宛にまでお送りください。なお、当日の参加も可能です。

[申込先] 事務局：秋田県立大学 生物資源科学部 生物環境科学科 自然生態管理学研究室（担当：石川）

FAX：018-872-1677 E-mail：[owner-cadal@ijinet.or.jp](mailto:owner-cadal@ijinet.or.jp)

【URL】 <http://www.jaals.net/>



## シンポジウムのご案内

### 逼迫する乾燥地の水資源とその対策 ―貯水池堆砂と地下水汚染を考える―

**趣旨：**世界の水利用の8割をカバーする表流水，その資源開発は主に貯水池（ダム）によって行われ，その持続的利用が強く望まれています。しかし，近年，特に乾燥地にある貯水池では堆砂によって利用可能貯水量が大きく減少しつつあります。既存の堆砂対策として挙げられる浚渫等は事業コストが大きく，発展途上地域では経済的負担を理由に実施されてきていません。そこで，貯水池管理を経済的視点から見つめなおし，貯水池底泥の有効利用を軸とした物質循環に基づいた新たな産業を創出し，その収益を貯水池管理に充てる発展途上地域でも実施可能な運用を提案します。発表者らはチュニジアの貯水池から得られた底泥サンプルを得て，その粒度特性と同国が抱える地下水のフッ素汚染状況を考慮し，飲料用水からのフッ素除去を可能とする小型のオンサイト浄水ユニットの開発に取り組んでいます。本シンポジウムでは，その研究成果を広く公開し共有したいと思います。

\* 科研費補助金 基盤 (A) 「サハラ砂漠周縁の水資源に関わる2大問題解決に向けた調査研究」(代表：入江光輝)

**日時：**2016年12月3日(土) 13:00～17:00

**場所：**宮崎大学工学部 B101 教室

#### プログラム：

- 13:00～13:20 「乾燥地における貯水池堆砂問題」  
入江光輝 (宮崎大学工学部教授)
- 13:20～13:50 「Joumine 貯水池堆積土を用いたセラミックスの作製」  
藤正督 (名古屋工業大学大学院工学研究科教授)
- 13:50～14:20 「飲料用水からのフッ素除去―スリランカでの実例」  
川上智規 (富山県立大学工学部教授)
- 14:40～15:10 「未利用資源を用いたフッ素処理資材の開発と性能評価」  
袋布昌幹 (富山高等専門学校教授)
- 15:10～15:40 「スマートデバイスを用いた水質検査技術の開発と性能評価」  
間中淳 (富山高等専門学校准教授)
- 15:40～16:10 「色情報を用いた水質調査用 Android アプリケーションの開発」  
古山彰一 (富山高等専門学校教授)
- 16:10～16:40 総合討論
- 18:00～20:00 懇親会 (会場未定)

#### ●参加費 無料

電子メールまたはFAXで，①氏名，②TEL，③FAX，④E-mail，⑤所属をご記入の上，シンポジウム事務局宛にまでお送りください。なお，当日の参加も可能です。

[申込先] シンポジウム事務局：

宮崎大学工学部社会環境システム工学科 (担当：入江)

TEL：0985-58-7341 E-mail：mt.irie@gmail.com

## 会場案内

バス利用（いずれも「宮崎大学」下車）

- 宮崎交通バス 811 番線「木花台方面宮崎大学・大学病院」行
  - 宮崎駅西1番乗り場より約40分 630円
  - 宮交シティより約25分 500円
- 宮崎交通バス 822 番線「まなび野方面宮崎大学・大学病院」行
  - 宮崎駅西1番乗り場より約50分 660円
  - 宮交シティより約35分 540円
- 宮崎交通バス 832 番線「清武方面宮崎大学・大学病院」行
  - 宮崎駅西1番乗り場より約45分 660円
  - 宮交シティより約30分 540円
- 宮崎交通バス 835 番線「清武方面熊野経由宮崎大学・大学病院」行
  - 宮崎駅西1番乗り場より約55分 660円
  - 宮交シティより約40分 540円

タクシー利用

- 宮崎空港から：約20分 2,100～2,500円程度
- JR木花駅から：約10分 800～1,000円程度
- JR清武駅から：約15分 1,500～1,900円程度
- JR南宮崎駅から：約25分 2,400～3,000円程度



## 学会記事

### 日本沙漠学会第126回理事会 議事録

日時：2016年7月15日（金）15：00～17：00

場所：東京農業大学世田谷キャンパス 生産環境工学科バイオロボティクス研究室木工室

出席：小島紀徳（会長）、吉川 賢、渡邊文雄（以上、副会長）、川端良子、酒井裕司、白石雅美、鈴木伸治、田中 徹（代理：高橋 究）、豊田裕道、森尾貴広、矢沢勇樹（以上、理事）、高橋新平、中村 徹（以上、監事）、島田沢彦、橋隆一（総務委員）、安部征雄（顧問）、的場泰信、依田清胤（オブザーバー）

委任状：吉崎真司、田島 淳（以上、理事）

#### I. 審議事項

1. おあしすの原稿確認
  - ・第124・125回理事会議事録（案）を確認した。
  - ・第27回学術大会（鳥取）報告を確認した。学術大会の会計報告は次回の理事会（10月15日）の理事会でなされる予定である。
  - ・2016年秋季シンポジウムが10月15日、名古屋学院大学「さかえサテライト」第8講義室にて予定通り開催されることを確認した。
2. 今後の学術大会・秋季シンポジウムの日程と開催地について
  - ・2017年度学術大会：千葉工業大学、2017年5月27～28日を予定。
  - ・2017年秋季シンポジウム：筑波大学、開催場所と時期を検討中。
  - ・2018年度学術大会：石巻専修大学での開催を進めている。地域で建設中である巨大温室や、震災後の環境復元をテーマとしたプロジェクト紹介との連携を検討中。

#### II. 報告事項

1. 第1回選挙管理委員会
  - ・選挙管理委員長を委員の互選により田島淳会員（総務担当理事）に決定した。また、選挙日程及び選挙時の送付宛先等確認がなされた。
  - ・評議員の被選挙人について、会員の権利を失った

評議員が居た場合の対応を、細則等を十分に確認したうえで検討することとなった。

2. 総務委員会
    - ・会員動静についての報告がなされた。
    - ・数名の会員の会員資格について確認する必要がある。
  3. 学会業務等の外部委託契約について
    - ・本理事会に先立ち、総会にて承認された学会業務の一部外部委託（主に総務・会計）について、株式会社共立と正式な契約を行った。
    - ・株式会社共立より大池典正氏（代表取締役）、三角誠司氏（営業責任者）、齋藤哲治氏（事務担当）、塚田和子氏（会計担当）が理事会に参加し、事業内容の説明や質問等への対応を行った。契約は問題無く締結された。
  4. 編集委員会
    - ・各投稿論文についての現在の状況が報告された。
    - ・冊子体の在り方に関するアンケートについて報告がなされた。現状では、冊子体を必要とする意見とオンラインジャーナルのみで良いという意見がほぼ同数であったが、回答者数がまだ少ないことから、さらなる周知を行うとともにアンケート期限を延長し、多くの声を集めることが確認された。
- #### III. その他
1. 今後の理事会日程
    - ・第127回理事会は10月15日、10：30より名古屋学院大学さかえサテライトキャンパスで開催する。議事録は総務担当理事が作成。
    - ・第128回理事会は2017年1月7日、15：00より開催予定。会場は共立が手配する。東京都中央区内の区民館の予定。議事録は共立が作成。
    - ・第129回理事会は2017年4月14日、13：00より開催予定。
  2. 乾燥地農学分科会
    - ・2016年11月14日もしくは11月17日に東京大学農学部でシンポジウムを行う予定。アフリカを題材に行いたいとのことが報告された。



## \* \* \* \* \* 会 員 動 向 \* \* \* \* \*

## ●新入会員

正会員 (2016 年度入会)

片平 公男 (ID:1094, 有限会社グリーンベルト)

斎藤 成也 (ID:1095, 国立遺伝学研究所)

学生会員 (2016 年度入会)

上江洲里美 (ID:1093, 秋田公立美術大学)

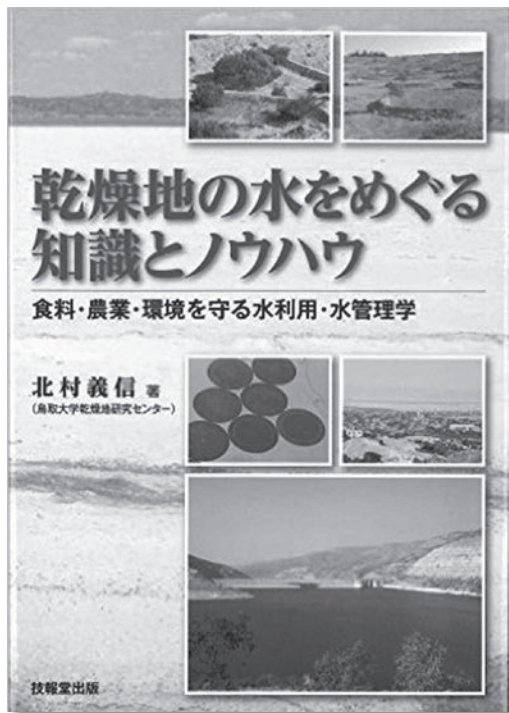
## ~~~~~ 賛助会員・団体会員名簿 ~~~~~

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel : 042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel : 03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	164-8721	東京都中野区本町 1-32-2	Tel : 03-5354-3621
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel : 0424-95-1060

~~~~~

## 書 評

北村義信 著：「乾燥地の水をめぐる知識とノウハウ—食料・農業・環境を守る水利用・水管理学—」技報堂出版、2016年3月25日発行、256頁、3,456円



本書の著者は、農林水産省に在職中、国際農林水産研究センターや農業工学研究所などで、湿潤地域の広域水管理に関する研究に従事してきた。その後、研究フィールドを乾燥地域へ展開し、アフリカのサヘル地域のニジェール川、エジプトのナイル川、インドのインダス川などで研究を行った。また、鳥取大学に所属してからは、約20年間を中央アジアのアラル海流域、中国の黄土高原、中東のイスラエル・シリア・ヨルダン、さらにインド、パキスタン、ケニア、エジプト、メキシコなどの乾燥地の河川流域での調査研究に従事してきた。

本書は、その長年の研究成果の中のとくに乾燥地の水に関する研究成果をまとめられている。乾燥地に関する専門書の中でも、本書は実に読み応えがある。その理由は、著者が実際に現地に足を運びながら、聞き取り調査やデータ収集、さらに綿密な解析等を行った研究結果に基づいているためである。とくに、具体的な現場での事例を示しながら、その原因や対策などを深掘し、かつ平

易に解説しており、専門分野の方はもちろんであるが、専門外の方にも多くの示唆を与えてくれる内容になっている。本書は9章からなっており、各章のタイトルは以下のとおりである。

- 第1章：乾燥地における水利用・水管理の現状と課題
- 第2章：グリーンウォーターの利用と管理
- 第3章：ブルーウォーターの利用と管理
- 第4章：非従来型水資源の利用と管理
- 第5章：乾燥地の灌漑農業と環境問題
- 第6章：国際河川のはらむ問題とその解決
- 第7章：乾燥地灌漑農地における塩類集積の脅威とその対策
- 第8章：乾燥地における水文、水資源—西アフリカの水収支と水循環の事例—

第9章：持続可能な灌漑農業と水資源利用に向けて  
いずれの章も、多くの研究論文の引用文献を示し、乾燥地研究の最前線の現場を経験された筆者ならではの視点が読者に大いに興味を沸き立たせてくれる。また、アラブの春から、最近のISの台頭など、中東やアフリカの最新情勢も盛り込まれている。

ご存じのとおり、国連は、昨年9月にニューヨーク国連本部において国連持続可能な開発サミットを開催し、『持続可能な開発のための2030アジェンダ (SDGs)』を全会一致で採択した。SDGsは、「誰も置き去りにしない」ことを掲げ、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な開発を実現するための重要な指針としていっている。また、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、MDGsの残された課題やこの15年間に新たに顕在化した課題に対応することを目指している。著者も、本書のはじめの中で述べているが、SDGsでの対象とするのは『最も取り残された人々』としていることから、厳しい環境の乾燥地で暮らす人々にとっても持続可能な開発の重要性を指摘している。まさに、本書はこの目標達成に大いに貢献する情報を提供している。

世界の乾燥地の水利用研究を通して、著者が培った知見がまとめられた本書は、乾燥地の水問題、農業開発、砂漠化対策 (環境問題) などに関心のある学生、社会人、開発コンサルタント、さらにNGO・NPOなどで国際協力の実務に携わる方など、多くの方に一読をお薦めしたい1冊である。

渡邊文雄 (東京農業大学)